研修動画を見た学生の感想

①学校で学ぶ英語をアメリカやイギリスでの言語としてではなくグローバル社会における英語としてとらえるという視点が今回の動画視聴で得た新たな考え方だった。日本語アクセントの英語が通じるのかが不安で外国人と話すのをためらってしまうという情意的な壁は英語を外国語として学ぶ多くの人にとって共通のものだと考えられる。自分はその不安を払うためにはスピーキングやリスニングの際に発音に注意することで苦手意識を克服するという方法しか考えたことがなかったが、様々な発音の英語を尊重し受け入れることが大切だという考え方を児童に芽生えさせるということも不安を取り除くためには効果的であると感じた。発音におけるためらいを取り除き自分の考えや気持ちを気軽に英語で表現できるような教室の雰囲気を作れるような教員を目指したい。

コメント：「発音におけるためらいを取り除き自分の考えや気持ちを気軽に英語で表現できるような教室の雰囲気を作れるような教員を目指したい。」➡️人が積極的になるためには，クラスの中で自分が支持されているという思いと安心感が欠かせないと思います。それがあれば，人は自発的に行動を起こすことにリスクを感じないようになります。外国語学習は，話す相手が必要であるという点では，どの教科にも増して支持的風土のクラスづくりが必要だと思います。

②英語の授業のポイントは、学ぶ場だけでなく教室を使う場とすること、という点を改めて再確認できました。生徒たちが、ほとんど英語を使わない、自分の気持ちを伝えたことがない、と答えるとありましたが、確かに、自分の気持ちを伝えたくて使うと言う場面は少ないと思います。反復練習のようなものが多いとそう思ってしまったり、生徒に伝えたい気持ちがなければ、こちら側が課題を与えてる一方的な授業になると思うのでそこの工夫もしていきたいです。

また、英語を学ぶ上で、発音や文法を気にし過ぎる事はよくあります。私自身かなり気にしていましたが、留学に行った際「日本語アクセントいいね！」と言われたり、他国の生徒が自国のアクセントを堂々と話し伝わっている姿を見てコンプレックスが少なくなっていきました。そこのコンプレックスを改善できると、先に挙げた「英語を使う」ということにも繋がっていくと思います。自分自身の体験などを通して生徒が英語を楽しんで使えるような環境を作っていきたいです。

コメント：「私自身かなり気にしていましたが、留学に行った際「日本語アクセントいいね！」と言われたり、他国の生徒が自国のアクセントを堂々と話し伝わっている姿を見てコンプレックスが少なくなっていきました。」➡️私も学生の頃に同じような経験をしました。その時に，外国語は相手に自分のことを伝えるツールなんだと思いました。上手く歌が歌えることとはその役割が異なると思います。

③小学校外国語で大切なことに、尊敬する・受け入れる気持ちを育む、お互いの考えや気持ちを伝えるとあったが、これは英語だけではなく、国語やその他の教科にも共通することだと考えたため、’外国語の授業’だけにとらわれず、他の教科でもその考え方を活かしていきたいと考えた。また、外国語の授業を通し生徒から、普段交流のない生徒ともコミュニケーションを取ることが出来たという感想が出ており、授業を通して新しい関わり合いが生まれることを知ったため、生徒が興味を持って授業に取り組んでくれるように、生徒の身近なものから題材を設定することの大切さがわかった。

英語は話したもん勝ちとあったように、恥ずかしがっていては話すどころかコミュニケーションを取ることもできないので、英語を楽しい、話したいと思える授業づくりをできるようになりたいし、生徒にそう思ってもらうためにも教師が英語は楽しいものだと一番に思わないといけないなと感じた。

コメント：「生徒にそう思ってもらうためにも教師が英語は楽しいものだと一番に思わないといけないなと感じた。」➡️教師が楽しいと思わないと児童は楽しいと思うはずはありません。それはどの教科にも共通しています。英語の場合は言葉の学習ですから，気持ちが言葉と一体となります。ですから，さらにその傾向は強まります。教育現場は多忙なため，疲労感を感じている教師も多いと思います。疲労感を感じている教師に，あえて質問しようとする児童はなかなかいません。児童なりに，無意識のうちに，気を使っているのかもしれません。私が今読んでいる本の中には「幸福度の高い教師は，成功する教師になる可能性が高い」と書いています。分かっていることですが，あらためて，教師の職場環境の問題や教師がやりがいを感じるようにするにはどうすればよいのかについても考えるきっかけとなりました。

④今回の動画を視聴して、英語は気持ちが9割というのはとても分かりやすくなおかつとても大切で考え方の中心になるなと感じた。グローバル化が進む世界でどのような場面で英語を使うかなどは考えればいくらでもあるが実際に話したい、伝えたいという気持ちがなければ使うことは無いと感じた。そしてイントネーションや発音は先生の話にもあった通り、日本の中でも違いはあるからネイティブみたいに上手でなくてもやってみようという気持ちにさせて授業するのが大切だなと思った。実際の授業では子供たちが発音などの不安なく、発言できるような場面を作れるようになりたいなと感じた。あとは先生がおっしゃっていたように、自己紹介はなぜするのかなぜ好きなスポーツを聞くのかなどはどれも相手のことを知り、仲良くなるための第1歩なので最後の方にあったようにあまり話したことない子が初めて話したけど楽しかったなどと言えるような活動が出来ればとてもいいなと思った。実際にやるのは難しいかもしれないけど頑張りたい。

コメント：伝えたいという気持ちがなければ使うことは無いと感じた。➡️サビニィヨンは「伝えたい気持ちがあってはじめて文法や語彙を学ぶことができる」と言っています。私は「積み荷」があってはじめて，船は港を出ることができるとよく例えています。船はもちろん文法や語彙などで，「積み荷」は伝えたい内容です。

⑤ビデオ視聴を通して、「英語は気持ちが９割」という視点はとても印象的で、確かに、ことばは、文法や語彙力よりも相手に伝えたい・交流したいということを重視していくべきだと考えた。そのようなことを授業で重視するためには、児童・生徒が英語を用いてやり取りをする場面を増やすこと、自分のこと・自分の気持ちを伝え合うことができるような活動を設定することが良いと感じた。日本人のアクセントに関する話を聴いて、私が高校生の時にオーストラリアでホームステイをした経験を思い出した。そこの家庭は、アラビア系のルーツを持つ家庭でアクセントが想像と違うなと感じた。だが、彼らは、そこにコンプレックスを抱くことなく英語を話している姿勢を見て、必ずしもアメリカやイギリスの人のようになる必要はないと考えた。これらの点から、児童・生徒が自分の考えを、自分のことばで伝えることができるという点を大切にして授業を行いたい。

コメント：私が高校生の時にオーストラリアでホームステイをした経験を思い出した。そこの家庭は、アラビア系のルーツを持つ家庭でアクセントが想像と違うなと感じた。だが、彼らは、そこにコンプレックスを抱くことなく英語を話している姿勢を見て、必ずしもアメリカやイギリスの人のようになる必要はないと考えた。➡️このような体験を聞くと，留学する意味が単に語学を学ぶという事に加えて，世界の人々が外国語にどのように向き合っているかを知ることができます。そして外の世界から，日本の英語教育を考える視点を持つことができます。私の教え子がインドの日本人学校から一時帰国しています。毎日，インド英語を聴いてだんだん慣れてきたそうです。そして，車の中でラジオから流れてくるアメリカ英語を聴いて「すごい！分かりやすい！」と歓声を上げていました。インド英語を受け入れつつ（インド的な英語の発音がインドでは理解されやすいそうです），標準的な英語を目指す（使える）ということも大切と思います。

⑥今回の動画を視聴して、小学校外国語を通して言葉の大切な役割について再確認するきっかけになりました。今考えてみると、自分自身も今まで生徒として外国語を学んできた中で自分の考えや気持ちを伝えるということや、外国語によって人と繋がったという経験はほとんどありません。つまり、そのような授業によって外国語の実用性を感じるということも少ないということです。教員が言っている英語をただ反復するだけの活動も、ある一場面の文を使えるようになるということや発音に関する勉強になるということはあるかもしれません。ですが、そこに外国語の実用性を感じたり、お互いの気持ちを伝えたりするという言語本来の役割には繋がりづらいのではないかと考えました。小学校外国語では、外国語を用いて相手に伝えたいと思える活動をいかにさせるかということが大切だということを改めて実感しました。

コメント：「ですが、そこに外国語の実用性を感じたり、お互いの気持ちを伝えたりするという言語本来の役割には繋がりづらいのではないかと考えました。」➡️数年前にベネッセが中学生に好きな教科アンケート（複数教科を選んでいい）をしたことがあります。一番選ばれた教科は体育です。二番目に選ばれた教科は何だと思いますか？答えは家庭科です。私は家庭科が選ばれた理由は実用性にもあるかもしれないと考えました。家庭科で学んだことは，家庭で料理などをする時に直ぐに活かせるのですね。でも，この考えが正しいかどうかはよく分かりません。なんと一番選ばれなかったのが総合学習や道徳だったからです。一番，実用性がある領域だと思いますが，みなさんはどう思いますか？

⑦今回のビデオ視聴を通して、英語は気持ちが9割であること、相手の言葉を受け入れる尊敬する気持ちを育むことの2つが印象に残りました。英語は日本語と異なる発音があるからこそ、より上手く発音しようとし、ネイティブに発音することで相手に伝わるという考えを自分自身持っていました。しかし、発音よりも相手に伝える、コミュニケーションを取ることが最も重要であることに気づくことが出来ました。よって「ネイティブ束縛から解放する」という言葉のように発音にとらわれず、伝え合うことが大事であり、それを教師として伝えていくべきだと思いました。また、日本語とは違う言語を用い、子ども同士のやり取りや活動で実際に体験することで、ジェスチャーなどを使い、どうにか伝えたいという気持ちを持つ、育てることができるのではないかと思いました。これは相手の気持ち、言葉を読み取ろうとする姿勢(受け入れ、尊重)にも繋がると考え、児童生徒が体験できるような場面を授業で取り入れていきたいと思いました。

コメント：これは相手の気持ち、言葉を読み取ろうとする姿勢(受け入れ、尊重)にも繋がると考え、児童生徒が体験できるような場面を授業で取り入れていきたいと思いました。➡「傾聴は，相手に尊敬の念を伝える重要な手段である。心から耳を傾ければ，より深いレベルでのコミュニケーションに発展する可能性がある。傾聴する人との会話は，常に思いやりに満ちている」（ドル二ェイ）。私はある授業で児童の対話の中に入らないALTの先生の授業を参観したことがあります。授業後に，「どうして児童の対話活動に入らなかったのですか？」と質問しました。そのALTは「児童の言っている英語が分からないから・・・」と答えていました。私はキレそうになる自分を押さえながら「児童の話に耳を傾けることが大切です。あなたに英語が通じた時の喜びは，日本人教師が与えることはできません」と伝えました。ALTで児童の対話活動に入って，やたらと発音を直す人もいます。発音の指導は別の所でもできます。児童の対話活動に入る時は，Really? と驚いてみたり，That’s great! と相手の話に同意したり，I didn’t know that? と知らなかったことを述べて児童に充実感を与えたりすることが大切と思います。皆さんも教壇に立つときは，英語を話すことだけでなく，児童の話を，（たとえ聞き取りにくい発音であっても），じっくりと聞くようにして欲しと思います。英語に限らないかもしれませんが，自分の話を聞いてくれない人の話はあまり聞きたくありません。